



ショートコメント

★★★

Data 2026-13

監督：ホン・ズーシュアン  
 出演：リン・ポーホン／ヴィ  
 ヴィアン・スン／ワ  
 ン・ポーチェ／リー・  
 リーレン／イレブ  
 ン・ヤオ

96分  
(96分鐘)

2025年／台湾映画  
配給：ハーク／120分

2026 (令和8) 年3月11日鑑賞

オンライン試写

## 👁️👁️ みどころ

現行の「新幹線のぞみ」の東京・新大阪間の所要時間は約2時間半だが、台湾新幹線の台北・高雄間の所要時間は96分。日本の誇るべき新幹線技術が台湾に輸出されたのは嬉しいが、まさか『新幹線大爆破』(75年)のネタやスリルとサスペンスまで輸出されるとは!?

もっとも、高倉健の渋い演技が際立った日本版とは違い、本作は主人公となる爆弾処理専門家の「あちらを立てれば、こちらが立たず」のハムレット的悩みがテーマ(?)だから、それに注目!

本作は「2025年台湾映画興行収入1位を記録」とのことだが、その出来は如何に?やっぱり、日本版の方が上!?

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

◆私が大阪弁護士会に弁護士登録したのは1974年4月。そんな時代に東映の岡田茂社長が企画し、1975年7月に高倉健、千葉真一、宇津井健らのオールキャストで製作・公開された映画が『新幹線大爆破』(75年)だ。ある日、国鉄本社宛に、新幹線ひかり109号に爆弾を仕掛けた、速度が80キロ以下になれば自動的に爆発するという脅迫電話がかかってきたが、その犯人は?その狙いは?

同作は、20年後にキヤヌ・リーブス、デニス・ホッパー、サンドラ・ブロックらの出演陣で実現した映画『スピード』(94年)のモチーフにされた作品と言われるほどのインパクトを与えたからすごい。そんな同作を、私はなぜかリアルタイムで映画館で鑑賞したから、その面白さをはっきり覚えている。

◆日本で新幹線が初めて走ったのは1964年10/1。東京・新大阪間を約4時間で結んだ新幹線ひかりはまさに「夢の超特急」で、その技術は世界に誇るべきものだった。そのため、1966年から76年までの10年間にわたった文化大革命の痛手を改革開放政策で何とか乗り切ろうとした中国の鄧小平国家主席が、日本の新幹線に試乗し、大いに喜んだというお話

は有名だ。ところが、残念ながら中国大陆には日本の新幹線技術は輸出されなかった。その理由は、①汎用性の不足（在来線との互換性なし）と②高コストだ。1980～90年代に日本、ドイツ、フランス等から高速鉄道の技術を学んだ中国は今や世界の鉄道大国になった上、その技術を世界に逆輸出しようとしているのだから、隔世の感がある。

それはともかく、世界に誇る日本の新幹線の技術は台湾に輸出されているから、私も台湾で2度乗ったことがある。台湾の新幹線が日本の新幹線とほとんど同じであることは喜ばしいことだが、何と台北から高雄に向かう台湾新幹線（高鉄）の車内に、妻と共に乗車していた爆弾処理専門家の宋康任（ソン・カンレン）（リン・ポーホン）のもとに、元上司の李傑（リ・ジェ）（リー・リーレン）から、「列車に爆弾が仕掛けられている」、しかも、「列車を止めると爆発する」という急報が入ったから大変だ。日本から台湾へは、新幹線（の技術）のみならず「新幹線大爆破」まで輸出されたの！？

◆チラシの見出しには、「2025年台湾映画興行収入1位を記録した、待望の話題作がついに日本で公開」の文字が躍っているが、そのストーリーのポイントは、「制限時間は96分、「新幹線に仕掛けられた爆弾を止められるか」の一点に集約されているから詳しい説明は全く必要ない。しかし、犯人の目的は一体何？そして、「台湾史上初、走行する台湾新幹線内で勃発する96分間のノンストップアクション！」のスリルとサスペンスは如何に？

◆本作は日本版『新幹線大爆破』に着想を得た（？）台湾版「新幹線大爆破」。したがって、本作冒頭、台北から高雄に向かう新幹線の車内にカンレンが座っているのは当然だが、なぜかそこにカンレンがかつて関与した某所における爆弾処理事件の姿が登場してくるから、アレレ。そこでカンレンは見事に爆弾処理を成功させたのだが、実はそこにある巧妙な仕掛けがされていたらしい。それは、カンレンが目の中の爆弾の爆発を防止すれば、自動的に他所に仕掛けられた爆弾の爆発に連動していたということだ。もちろん、そんなことを知らないカンレンは任務を忠実に実行しただけだが、それが結局、「自分の命を救うために他人の命を犠牲にした」と非難されることになってしまったから、アレレ、アレレ。

そんなカンレンの下に今、再び元上司のリ・ジェから、「新幹線内に仕掛けられた爆弾を96分以内に発見、処理し、爆発を阻止せよ」との命令が出されたわけだが、カンレンは再びそんな任務にチャレンジできるの？

◆世の中には時として、「あちらを立てれば、こちらが立たず」と“二者択一”を迫られるケースがあるが、本作はまさにそれ。つまりAの爆弾の処理をすれば、それが自動的にBの爆弾の爆発に連動していると予告されれば、Aの爆弾処理に当たっているカンレンのような爆弾処理班は、如何に対処すればいいの？本作はそんな根源的な問い（？）を真正面から問うものだが、さてその出来は？

2026（令和8）年3月17日記